

# 学部・研究科等の現況調査表

## 教 育

平成22年6月

長岡技術科学大学

## 目 次

3. 技術経営研究科

3-1

## 3. 技術経営研究科

II	分析項目ごとの水準の判断	・・・	3 - 2
	分析項目 V	進路・就職の状況	・・・ 3 - 2

## II 分析項目ごとの水準の判断

### 分析項目V 進路・就職の状況

#### (1) 観点ごとの分析

##### 観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

#### 1 【就職後の職務変化にみる産業界の評価】

本専攻は、平成 21 年度末までに合計 44 名の修了生を様々な産業界と地域に輩出した(資料Ⅱ-V-1、Ⅱ-V-2)。彼らはシステム安全に関する体系的、横断的な知識を有する専門家として、所属企業では安全関連業務を統括する部署へ異動するなどしており、また、業界レベルの安全基準策定などにも活躍している。電機大手企業M社の学生は本専攻の学位取得と同時に課長職に昇進し、従来からの担当分野だけでなく、事業所全体の製品安全を担当することとなった。ある2期生は入学1年後にして社内の製品安全に関する業務を統括する部署に移動となっている。また、自動車業界に勤務するある2期生は、本学修了後、政府に新設された消費者庁の調査専門職員へと転身した。国際的安全審査認証機関を含む多数の企業から、「システム安全の新卒者を採用したい」との問い合わせも寄せられている。労働安全衛生法改正によるリスクアセスメントの義務付け(平成 18 年 4 月施行)など、システム安全の専門家に対する需要は急速に高まっているが、国際水準の知識と実務能力を有する安全専門家は依然としてほとんどいない。こうした中で、日本で唯一のシステム安全教育プログラムとして本専攻は高い評価を受けている。

#### 2 【マスメディアからの関心と評価】

本専攻はシステム安全に関する日本初の教育プログラムであるため、開設前からマスメディアの注目を浴びていた。開設後も、人気経済番組「ワールドビジネスサテライト」の安全特集で本専攻の授業風景が特集されるなど、大きな関心が寄せられている(資料Ⅱ-V-3、資料Ⅱ-V-5)。

#### 3 【修了生、在校生、受験生による評価】

修了生、在校生ともに学期末におけるアンケート調査において満足を表明している(資料Ⅱ-V-4)。同一企業からの継続した入学希望者があるのは、こうした満足の現れである。産業界のみならず、厚生労働省、原子力安全・保安院、海上保安庁、自治体の危機管理要員など、公的セクターからも入学者がある。

#### 4 【修了生が難関資格であるシステム安全エンジニア資格を取得】

平成 21 年 3 月に「システム安全エンジニア資格認定制度」が創設され、第一回試験が実施された(資料Ⅱ-V-5、Ⅱ-V-7)。この資格は広範囲の試験科目をカバーする難関資格であるが、本専攻の修了生 6 名が合格し、認定された。

#### 5 【安全安心社会研究センターの開設】

本学は平成 20 年 4 月に「安全安心社会研究センター」を設置した。同センターは、第一線で活躍するシステム安全専攻修了生のネットワークを活用することとしており(資料Ⅱ-V-6)、同センター客員研究員に任命された修了生は、所属企業の立場を離れ、第三者の安全専門家として既に各種セミナー講師などとして高い評価を得ている。

#### 6 【高専からの高い関心】

高専生からも本専攻の教育内容について大きな関心が寄せられており、本学が提供している幾つかの安全関連 e ラーニング科目に対する受講生は著しく増加している(資料Ⅱ-V-8)。

#### (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る。

(判断理由) 前項で述べたように、学生の所属企業、マスメディア、学生自身、本学の工学部在学学生、高専などからいずれも高い評価を得ており、新しいシステム安全エンジニア資格制度、本学安全安心社会研究センターの活動とあいまって、修了生は社会的に大きなインパクトを与えていると言え、期待される水準を大きく上回る活躍をしている。

別添資料

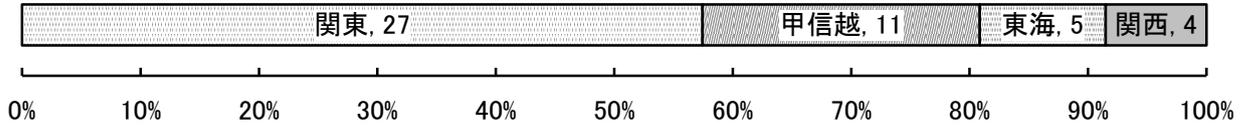
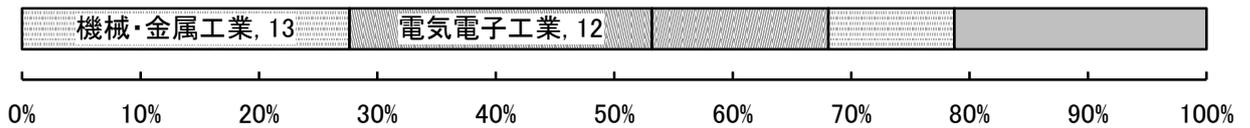
資料Ⅱ－Ⅴ－１ 修了生の進路

進路	修了年度	平成 19 年度 (第一期生)	平成 20 年度 (第二期生)	平成 21 年度 (第三期生)	3 カ年 合計
修了者数		15	14	15	44
就・復職者数 ( ( ) 内は就職者数、内数)		15(1)	14	15	44
内博士課程進学者 (注)		4	3	3	10
本学博士課程		3	2	3	8
情報・制御工学専攻 安全工学コース		2	2	3	7
エネルギー工学専攻		1	0	0	1
他大学博士課程		1 (東京大学)	1 (明治大学)	0	2

注：全員が社会人学生として企業に在職しながら博士課程に進学したものである。

資料Ⅱ－Ⅴ－２ 修了生の就職先企業の産業別、地域別構成 (数値は人数)

化学・食品工業, 7 その他産業, 5 公務公的機関他, 10



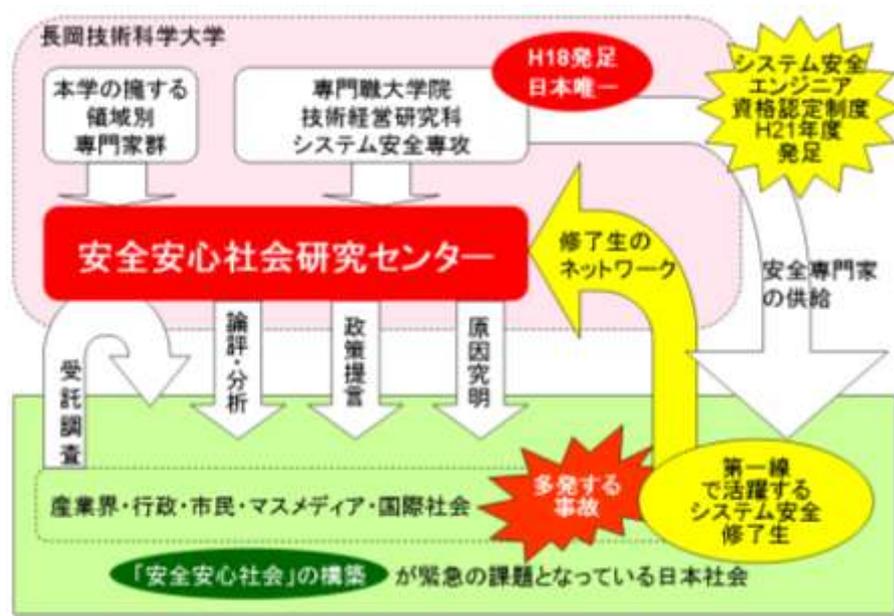
資料Ⅱ－Ⅴ－３ システム安全専攻に関する報道事例

日付	媒体	掲載内容、タイトル等
H17年12月27日	日刊工業新聞	「システム安全」の専門職大学院 長岡技科大が来春開設
H18年1月1日	新潟日報	システム安全養成専門職大学院開設 4月に長岡技科大
H18年12月27日	フジサンケイ ビジネスアイ	長岡技科大 日本初のシステム安全大学院 死亡事故減らす専門家育成
H18年1月20日	NHK 総合	お昼のニュースで本学システム安全専攻設置を報道
H18年1月21日	日本経済新聞	システム安全専攻新設 ミス・誤操作での事故防ぐ
H18年1月25日	日経産業新聞	長岡技科大が開設 専門家を育成
H18年1月27日	日刊工業新聞	ニーズ高まる「システム安全」 長岡技科大学長小島陽氏に聞く
H18年1月29日	朝日新聞	「安全」守る技術者育成 長岡技科大が専門職大学院
H18年2月23日	読売新聞	「システム安全技術者」養成
H18年12月21日	テレビ東京	人気経済番組「ワールドビジネスサテライト」の安全特集でシステム安全実習の授業風景、討議風景、学生・教員へのインタビューを報道
H20年4月2日	新潟日報	長岡技科大、安全安心の技術発信
H20年4月4日	読売新聞	専門家が「安全・安心」分析 長岡技科大第三者的立場で提言
H20年4月11日	日刊工業新聞	製品事故・安全を調査 長岡技科大が研究組織
H22年2月10日	読売新聞	システムの安全管理、資格にー長岡技科大中心に認定制度
H22年2月10日	日本経済新聞	システム安全資格認定ー長岡技科大 来月、都内で試験

資料Ⅱ-V-4 授業アンケートの結果

調査項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
全体的な授業評価 (1=不満足、5=良かった)	演習科目 3.63 基礎科目 4.06 応用科目 4.13	演習科目 4.19 基礎科目 4.29 応用科目 3.77	演習科目 4.08 基礎科目 4.38 応用科目 3.96	演習科目 4.09 基礎科目 4.50 応用科目 4.17

資料Ⅱ-V-5 関連報道 資料Ⅱ-V-6 安全安心社会研究センターの概要



実務の第一線で活躍するシステム安全専攻修了生の多彩な知見を活用し、安全安心社会の構築に貢献することが本センターの活動の大きな柱の一つである。

資料Ⅱ-V-7 システム安全エンジニア資格認定試験の第一回試験日程と試験科目

第一日 平成22年3月6日(土)		第二日 平成22年3月7日(日)	
10:00 ~ 11:00	筆記試験 -- ① 安全基礎工学	9:00 ~ 10:00	筆記試験 -- ⑥ リスクアセスメント
11:15 ~ 12:15	筆記試験 -- ② 国際規格	10:15 ~ 11:15	筆記試験 -- ⑦ 安全マネジメント
12:15 ~ 13:15	休憩	11:30 ~ 12:30	論文試験
13:15 ~ 14:15	筆記試験 -- ③ 機械安全	12:30 ~ 14:00	休憩
14:30 ~ 15:30	筆記試験 -- ④ 制御安全	14:00 ~	面接 (一人15分)
15:45 ~ 16:45	筆記試験 -- ⑤ 電気安全		

資料Ⅱ-V-8 本学提供安全関係科目の高専からの受講生数等 ( ) 内の数字は高専数

科目名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
安全と人間工学	8(2)	41(7)	125(6)	90(6)
安全制御基礎	未開講	3(1)	16(3)	29(4)
機械設計における安全	25(3)	11(3)	47(5)	24(5)
コンティジェンシー・マネジメント	未開講	20(4)	31(3)	24(4)
安全社会と技術者倫理	未開講	9(3)	61(5)	17(2)
受講者小計 (延べ人数)	33	84	280	184

参加高専数は 13 校(宮城、茨城、奈良、大島商船、小山、仙台 (H21.9 まで仙台電波)、長岡、明石、木更津、福島、詫間電波、石川、米子)